

引きこもり論の名著 待望の再刊

引きこもるといふ情熱

付録として「引きこもりの家族学」を収録 解説：高岡健



芹沢 俊介 (せりざわ しゅんすけ)

1942年生まれ、2023年没。評論家。1969年『試行』にて「北条民雄」でデビュー、1973年には初の文学論集『宿命と表現』（冬樹社）を出版。以降は家族問題を中心に事件、宗教、サブカルチャーなど幅広く論じた。単著・共編著ともに多数。

芹沢 俊介 著

発行者 イノセンスの会

発行所 くるんば

定 価 税込1,980円 (本体1,800円+税)

判 型 四六判並製

頁 数 232頁

出版日 2026年2月5日刊行

ISBN 978-4-910972-05-3 C0036

〈ひきこもり〉を新しい自己の
誕生へと向かう過程として
全面的に肯定してみせた名著

引きこもるといふ情熱【目次】

この本を読むために

I 引きこもり現象の背景

第一章 引きこもりの社会心理学的背景

第二章 社会的引きこもり観の限界

第三章 引きこもりの危機Ⅰ 引きこもり引き出し人

第四章 引きこもりの危機Ⅱ 社会的自立論について

II 正しい引きこもり 引きこもりにはプロセスがある

第五章 引きこもりの往路 引きこもりのプロセス1

第六章 滞在期について 引きこもりのプロセス2

第七章 自己領域と帰路について 引きこもりのプロセス3

III 具体例を考える

第八章 女性が引きこもるとき

第九章 引きこもりを生み出す環境〈教導する父〉の問題

第十章 引きこもりの意味 撤退と退行

IV 引きこもりの失敗

第十一章 引きこもりと暴力 正しく引きこもることの大切さⅠ

第十二章 正しく引きこもることの大切さⅡ

—西尾市十七歳ストーカー殺人事件

あとがき

付録 引きこもりの家族学／解説 高岡健

引きこもり現象を、外からみえる姿だけで、つまり他者関係からの撤退という観点だけで説明できるようには思えないのです。引きこもりには、目に見えないもう一つの撤退の段階がある、そのように想定する必要があると思えるのです。撤退の目に見えないもう一つの段階とは、自己からの撤退です。自己からの引きこもり、といってもいいでしょう。そして私の理解では、この自己からの撤退、自己からの引きこもりという段階にいたった引きこもりだけが正しい引きこもりなのです。(本文より)

ご購入・お問合せ先

くるんば 〒665-0841 兵庫県宝塚市御殿山3-2-10

FAX 0797-62-6874

弊社ホームページからもご購入できます

e-mail meetup@kurumba-m.com

くるんば 検索
kurumba-m.com

または



■ご注文について 〈お名前〉〈送り先住所〉〈電話番号〉〈FAX番号〉〈メールアドレス〉をお知らせください(太字は必須)。

- ①【お届けについて】 1冊はクリックポスト、2冊以上はレターパックまたは宅急便にてお送りいたします。通常、発送から2日以内でお手元に届きます。
- ②【お支払いについて】 商品とともに添え状をお送りします。お支払いは記載している銀行口座にお振込をお願いいたします(振込手数料お客様負担)。
- ③【送料について】 1冊のご注文は200円、2冊以上のご注文は400円となります(離島配送地域は別途)。

●お近くの書店、ネット書店(Amazonなど)でもお買い求めいただけます。